

ビジネスにより良い

機会を与える都市





マドリッド

ビジネスにより良い機会を与える都市

戦略的位置 

事業の機会 

最高品質の資源を備えた土地 

生活水準の高い都市 

知性ある都市 

企業の支援活動を行う都市 

マドリード、より魅力ある選択 7

マドリード、戦略的位置 8

マドリード、スペインの行政と経済の首都	10
優れた戦略的位置	12
第一級のインフラ整備の中心地	14
ロジスティックスの拠点	16

マドリード、事業の好適地 18

非常に多角的なサービス経済	20
国際金融の中心地	21
企業はマドリードを選ぶ	22
予想しやすく安定した社会、財政、労働環境	24
マドリード、グローバル都市	25
海外投資家に好まれる地	26
見本市や会議との出会いの場	28

マドリード、最高品質の資源を備えた地 30

創造性と新取の気性に豊む、優れた人材	32
科学と傑出したテクノロジー	33
TICSと新世代の再生エネルギー	34
生命科学のクラスター	35
広大な商業・産業用敷地	36
統合する都市、マドリード	38





マドリード、生活水準が高い都市 40

開放的で国際色豊かな都市	42
持続可能な都市:豊かな緑と水、交通機関	43
観光	46



マドリード、知性の都市 48

知性をリードする都市	50
少ない資源で多くのものを生産する効率の良い都市	51
知性あふれる市民と企業を持つ都市	52



企業支援活動を行うマドリード 54

経済発展の促進に貢献するマドリード市役所	56
海外投資の呼び込みプラン	57
投資家への支援・相談窓口	57
マドリード市、企業育成センターのネットワーク	58

マドリード、より魅力ある選択

世界経済の前には、様々な挑戦を行ったり新しい機会を捉えていこうとする手段を通じて、歩むべき道が開かれております。人も企業も、新しい技術によって可能性を高められた環境へと自分を変化させ、適応させる機会を試しています。こうした試みは今日、成長を目的とした活動を行うに当たっては、必要不可欠の役割を果たしています。積極的な活動によって、事業を促進展開させるために相応しい環境の生育は、全ての企業の願うところ です。

マドリードは世界的な大都市の一つであり、科学者や企業を魅了し、また喜んで迎え入れ、彼らの活動を促進するために相応しい枠組みを造り上げるよう努力しています。更に、様々な事業を展開していくための経済上の条件、兵站、技術、人的資源などをより強固なものにするよう働いています。

スペイン・ポルトガル市場へのアクセス、ヨーロッパ地域だけではなく地中海諸国やラテンアメリカ諸国へ簡単に移動できるという、地理上の絶対的な有利性、そしてこの地域が13億の人口を抱えているという状況などを考えますと、マドリードが国際社会に与える影響は計り知れません。更に、マドリードのインフラ整備と科学技術はヨーロッパの中でも優れており、優秀且つ効率の良い人的資源は、海外の多国籍企業や様々な分野のイノベーションと関連した企業からも重宝されています。

イノベーション、技術、技能、更にサービスの質やインフラ整備などは、どの企業にとっても成功への鍵であり、マドリード市はそのことを認識しており、その対応を行っております。

問題なく安定した法律や財政環境のもとに、スペイン経済はヨーロッパで最も柔軟で力強さを持った国の一つになるために、新しい成長モデルに順応するように挑戦中です。



マドリードは世界の多くの企業、その中でもより革新的な企業や有能なプロフェッショナルな人々が好んで選ぶ都市の一つです。マドリードは、他のヨーロッパの大都市とは違ったものを提供します。例えば、親切で親しみやすい環境の中で、より良いアイデアやプロジェクトを展開していく機会や仕事にとって不可欠な人材、現代感覚、効率性などを提供することができるのです。その他、企業を開業する都市を選ぶ際に決定的な役割を果たすものがあります。それは、働く人が日常生活の快適さを重要な要素とする気候条件です。このような側面から見ると、マドリードにライバルはありません。スペインの首都の持つの質の高い日常生活、即ち気候、空気の良さ、豊かな緑、アクセスの良さなどは、有り余る仕事を抱える人々にとって、一つの利点でしょう。

日々、その規模の大小に関係なく多くの海外企業がここに会社を設立していますが、同じくスペイン企業も会社の規模が大きくなり、競争力を持って、国際市場の中で存在感を示すところが増えています。

マドリードはダイナミックで活気に富み、親しみやすく近代的でありまた、開放的で国際性豊かな都市です。それ故ここでは、仕事や経済的成功とあらゆる面で非常に上質の日常生活とを両立させることができます。





01

マドリード、 戦略的位置

マドリード、行政と経済の首都

優れた戦略的位置

第一級のインフラストラクチャーの中心地

ロジスティックスの拠点

マドリード、スペインの行政と 経済の首都

マドリードは、ロンドン、ベルリンに次ぐEU圏
第三の都市です。

イベリア半島第一の都市であり、直接・間接問わず高い購買力を持ち、尚成長中のほぼ 6,000 万人を抱える市場への玄関に当たります。

マドリードとその周辺には約 660 万人が住み、全人口 4660 万人の 13.9% に相当します。

マドリード市の人口は増加中ですが、2016年1月現在では、316万 5883 人に達しており、それは全人口の 6.8% です。

更にマドリードは、ロンドン、ベルリンに次ぐEU圏第三の都市で、規模の面でもイル・ド・フランス地域圏とグレーター・ロンドンに次ぐ大きさです。

国内総生産 (GDP) は1259.48億ユーロで、国内の11.9%を占めています。一方、マドリード市民のGDPは、40,227ユーロで国内平均値を77%、ユーロ圏28都市の平均値を47%上回っています。

最近十年間に、マドリード地域は全国で最も高い13.3 %という経済成長率を記録しましたが、その間国内平均成長率を6.9%、ユーロ圏19ヶ国の平均を5.9%*上回っています。このような状況のもとに、マドリードとその周辺地域はスペインに対する海外からの投資額の50%以上を獲得しました。

マドリード市民の GDP は、40,227 ユーロで国内平均値を 77%、
ユーロ圏 28 都市の平均値を 47% 上回っています。

*全ての数値は、スペイン国立統計局 (INE) と2015年度マドリード経済調査局によります。

世界経済の中のスペイン

- ユーロ圏で4番目の経済規模を持ち、全GDPの10%を占めています。
- 2015年度実績の世界GDPでは第14位。2016年、2017*年には、第12位になると予想されます。スペインは先進経済大国の中では、最も経済成長率の高い国です。
- 2015年度実績の貿易額では第18位の輸出国。商業サービス部門では第11位。2016年度貿易額は、初年度予想で2.1%の成長を見込んでいます。スペインはユーロ圏の経済大国の中では、最も経済成長率の高い国です。
- 海外からの直接投資額 (FDI) は第8位 (7,220億ドル)。
- 2014年度の海外への投資額は第14位。
- ラテンアメリカやカリブ諸国に対する第3位の投資国。
- 2015年度実績の自動車生産台数は、ヨーロッパで第2位、世界で第7位です。
- 観光収入は世界で第2位 (ヨーロッパで首位)。
- 世界で第3位の観光大国 (2015年の観光客数は6,810万人)。

*IMF、世界銀行、世界観光機関 (WTO)、国連貿易開発会議 (UNCTAD)、国際自動車連合会 (OICA)、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC)、スペイン教育文化省 (MEC)、スペイン貿易投資庁 (ICEX)。

KIOタワー

ヨーロッパの主要都市

中小企業によるビジネスが多く存在する都市

1. ロンドン
2. パリ
3. ミラノ
4. **マドリード**
5. ローマ
6. イスタンブール
7. ミューヘン
8. ベルリン
9. バルセロナ
10. アムステルダム

その他の指数で、都市の将来のプロジェクトを評価するために、経済と社会に関する5項目を分析するPWC Cities of Opportunity – 世界の都市力比較2014年によると、マドリードはロンドン、パリ、ミラノに次いで第4位となっています。このリストでマドリードに続く都市は、ストックホルム、ベルリン、イスタンブールです。

優れた戦略的位置

スペインとマドリード市は、5億人の年間平均収入3万ドルの消費者を抱える、世界最大のマーケットへの入り口です。

マドリード市への投資は、欧州連合のように、より機能的に構成された経済圏で利益をあげることを意味します。また、この戦略的位置を利用してアフリカ諸国との事業を展開することも可能です。

ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アジアの大企業はマドリードにオフィスを置き、そこから残りの大陸と取引を行っております。

旅行や高い競争力を持った金融・企業サービスのために必要な優れた連絡網あるいは言語は、マドリードへと多国籍企業を引き寄せています。

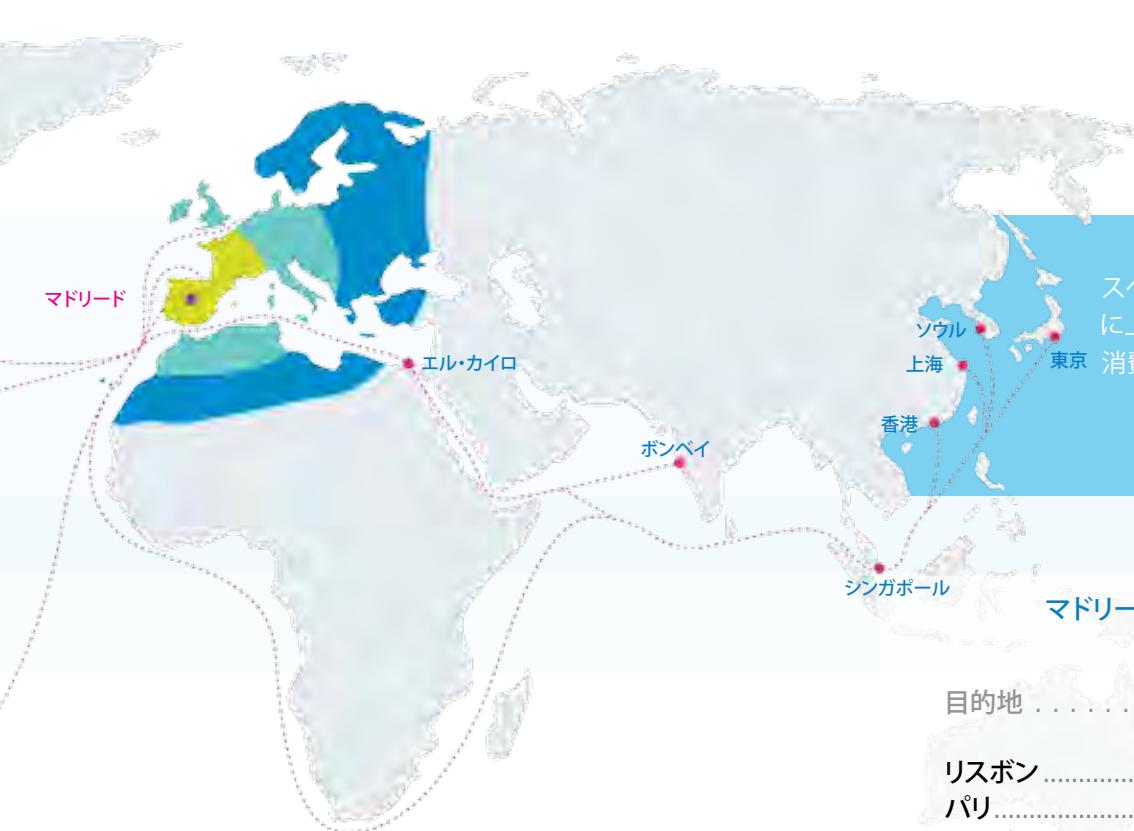
歴史的・文化的絆や好条件の地理的位置のおかげで、マドリードは、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、地中海地域との間に一つの優れたつながりを提供しており、13億人以上の顧客を受け入れる比類なき架け橋となっています。

マドリードに本拠を置くスペインの多国籍企業は、金融・通信・エネルギー・建設・サービス業の分野で、世界のリーダー的存在であり、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジア、米国で事業を展開しています。



アドルフォ・スアレス・マドリード・バラハス国際空港は、ヨーロッパとラテンアメリカの間で最適の位置にあります。2015年度には、ほぼ4,700万人の旅行客を記録しています。ラテンアメリカ諸国への直接便を提供する26本の接続便は、この空港をラテンアメリカ諸国への玄関口という存在にしています。

マドリードは、国内の広域にわたる近代的な鉄道、道路網の恩恵によって、46の港湾と緊密に結びついています。特に、アルヘシラス、バレンシア、バルセロナの各港湾は、マドリードと地中海の間に位置する通過点であり、商品流通を最適なものにしていきます。



スペインとマドリードは、5億人以上に上る年間平均収入3万ドルの消費者を抱える、世界最大のマーケットへの入り口です。

マドリード

エル・カイロ

ボンベイ

シンガポール

ソウル

上海

香港

東京

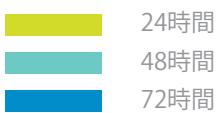
マドリードと世界の主要都市間の空港を結ぶ所要時間

目的地 所要時間

リスボン	1:15
パリ	1:50
ロンドン	2:00
ブリュッセル	2:10
フランクフルト	2:40
モスクワ	4:40
エル・カイロ	4:40
ニューヨーク	8:00
ドバイ	8:40
サンパウロ	10:00
メキシコシティ	10:10
北京	11:30
ブエノス・アイレス	11:40
上海	12:20
香港	12:35
広州市	14:50
東京	15:10

----- 海上ルート

陸上ルート



出典: IATA

第一級のインフラ整備の中心地

スペインの新幹線鉄道網は総延長3100キロメートルを超え、世界で2番目の長さを持っています。

スペインは世界でも最も発達した鉄道網のインフラ整備のおかげで、第三国へも優れたアクセスを提供しています。マドリードと南部ヨーロッパの都市間を結ぶ鉄道網は、その他のヨーロッパの各都市と世界各国との連絡をより便利にしています。

鉄道網:マドリードはヨーロッパでは最も近代的で非常に広範にわたる鉄道網の中心地です。その内、新幹線鉄道網は総延長3100キロメートルを超え、世界で2番目の長さを持っており、この高速鉄道網の主要都市の一つとなっております。またこの鉄道網は国内の主要な大都市（バルセロナ、マラガ、セビージャ、バレンシア）とヨーロッパの主要都市につながっています。

道路:マドリードを中心に15,000キロメートルを超える有料高速道路と一般高速道路網が放射状に広がっており、尚建設中です。マドリード地域の道路の総延長距離は3340キロメートルあります。

アドルフォ・スアレス・マドリード・バラハス国際空港:その収容能力はヨーロッパで2番目の規模を持ち、年間7000万人の旅行客が訪れますが、これは6番目の利用者数に相当します。181都市の目的地の内、168はスペイン国外の都市と結んでいます。

アドルフォ・スアレス・マドリード・バラハス国際空港の航空貨物センターは、国内扱い量の50%を占め、200を超える企業がここに登録されています。

アドルフォ・スアレス・マドリード・バラハス国際空港は、マドリードとスペイン全土の経済の要になっています。地域経済の刺激は、企業や観光面での成長を促進します。

空港から市内までの距離が13キロメートルと、ヨーロッパ各国の首都の空港の中では最もアクセスが良いこと、それは観光分野の基本条件です。このような条件が旅行者に快適さを与えると同時に、滞在中の時間と費用の節約にもつながります。僅か12分の所要時間の地下鉄料金は3ユーロであり、空港と市内を結ぶバスは24時間営業しています。

「ハブ」空港化すべく、空港を拡張することによって、各航空会社は、ラテンアメリカ諸国、国内及びヨーロッパ内の市場間の結び付を高めました。2015年度の一日の平均旅行者数は12.6万人を記録しています。

出典：国際空港評議会ACI (2016)



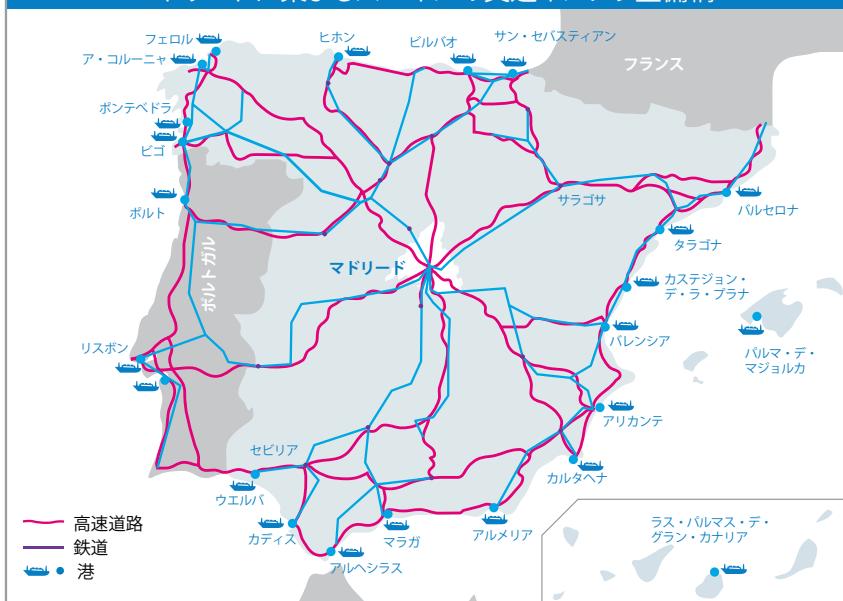
アドルフォ・スアレス・マドリード・バラハス国際空港は、ヨーロッパで2番目に大きな収容力を持ち、旅行者数では6番目です(2015年度)

2015年度で最も旅行者数が多いヨーロッパの空港

1. ロンドン(ヒースロー) 74.9
2. パリ(シャルル・ド・ゴール) 65.7
3. イスタンブール 61.8
4. フランクフルト 61.0
5. アムステルダム 58.2
6. マドリード(バラハス) 46.8
7. ミューヘン 40.9
8. ローマ(フィウミチノ) 40.4
9. ロンドン(ガットウィック) 40.2
10. バルセロナ 39.6

出典：スペイン空港・航空管制公団(AENA)、ユーロスタット、経済管理局(2015年度)

マドリードに集まるスペインの交通インフラ整備網



ロジスティックスの拠点

商品の輸送と流通販売を行う内外企業の75%がマドリードに本拠を持っています。

マドリードと周辺地域には、国内のロジスティックス面でのインフラ整備と輸送網が最も集中しており、その規模は3,800万平方メートルにも及びます。

ロジスティックスは、マドリード地域に全国の流通収益の6.6%に相当する、年間95億ユーロを超える収益をもたらしています。

マドリード地域には、**508,000の企業がありますが、ロジスティックス企業はその内5.9%**を占め、15万人以上の人々が働いています。

マドリードの発着地の中で重要な所は、**ヘタフェ、バジェカス及びコスラーダ** (EUの主要な内陸港であるマドリード～コスラーダ内陸埠頭を含む)、**バラハス航空貨物センターとメルカマドリード** (生鮮食料品を扱う中央市場としてはヨーロッパで最大、世界で2番目の規模を持つ)、**トレホン・デアルドスのカサブランカ商業団地やエナレス回廊のロジスティックス拠点**などです。いずれもマドリード地域内にあたり、スペイン国内とEUのロジスティック拠点とを結んでいます。

マドリードにロジスティック拠点を置く企業に提供する、質の高い安価なインフラ整備と効率の良い行き届いたサービスは、国内のどの地方でも8時間以内に、またヨーロッパのどの地域にも24時間以内に、顧客の要請に応じることができます。国内外の輸送販売企業の75%は、マドリードにその本拠を置いており、スペイン国内では、在庫回転率の低い物品の60%を販売経路に乗せています。これら企業の販売高はこの部門の84%を占めています。

マドリードは、8時間以内にイベリア半島の、そして24時間以内にヨーロッパのどの都市へもアクセスできる絶好のロジスティックス拠点です。

マドリード市の主なロジスティックセンター

1. コスラーダ輸送センター
2. ビカルバロ中継ターミナル
3. メルカマドリード中央市場—マドリードの輸送センター
4. コスラーダ—サン・フェルナンド・デ・エナーレス—ロジスティック専用センター
5. アブロニガル・ターミナル
6. マドリード—コスラーダ内陸埠頭
7. 商品保管用ロジスティックセンター
8. バラハス・エアカーゴセンター
9. トレホン・デ・アルドスのカサブランカ商業団地
10. エナーレス回廊



2014年よりマドリード市は、高速輸送のために、中国と直結する鉄道網を備えています。

より近くなったマドリードと中国



2014年よりマドリード市は、高速輸送のために、中国と直結する鉄道網を備えています。マドリードのアブロニガル・カーゴセンターと到着地である中国東部の義烏市 (Yiwu) とは 13,052 キロメートル離れています。この義烏市は、世界最大の日用品の販売発送センターです。

この鉄道ルートは一週間に2便あり、船舶輸送よりも10日早く到着し、コスト面でも航空便よりも有利となっています。このルートはマドリードと巨大な中国市場との間に、通商の面で多くの実りある可能性を持っています。



02

マドリード、 事業の好適地

非常に多角的なサービス経済

国際金融の中心地

企業はマドリードを選ぶ

予想しやすく安定した社会、財政、労働環境

マドリード、グローバル都市

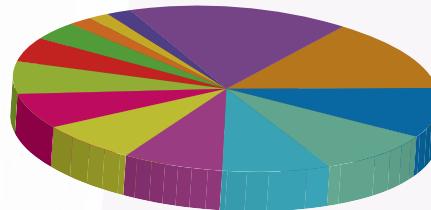
海外投資家に好まれる地

見本市や会議との出会いの場

サービス業分野はGNPの87.5%に相当し、その発展はマドリードの成長の原動力となっております。

非常に多角的なサービス経済

サービス業分野はGNPの87.5%に相当し、その発展はマドリードの成長の原動力となっております。この経済部門は、様々な企業、各地域の消費者、国内外マーケットのための非常に幅広いサービス業務を包括しています。



企業・専門家へのサービス	16.7
情報と通信	13.5
融資と保険業	10
不動産業	9.5
輸送と保管	8.2
小売業	7.6
公共行政	7.2
卸売業	6.7
ホテル業	6.4
公衆衛生業	5
教育	3.8
修理業	1.9
芸術・娯楽	1.9
その他	1.7

出典: 2015年度マドリード経済管理局

マドリードに開設されている会社に対して
サービス業務を行う、世界の一流企業

Accenture, Adecco, American Express, AT Kearney, AXA, Barclays, BNP Paribas, CapGemini, CB Richard Ellis, Cigna, Deloitte, DHL, Ernst & Young, Fedex, Fujitsu, Hay Group, HP, HSBC, IBM, KPMG, LeasePlan, Manpower, McKinsey, Mercer, Microsoft, Oracle, Price Waterhouse Coopers, Randstad, SAP, Securitas, SoftwareAG, Boston Consulting, TNT, UBS, UPS, Visa, Watson Wyatt...

国際金融の中心地



「クアトロ・トレス」ビジネス街

マドリード株式市場は、成立した取引の85%が海外の投資家によって行われるように、非常に国際化されています。

マドリードは近年非常に大きく発展したヨーロッパの金融市場において第4番目の規模を持っています。この首都には、国内外の保険会社や銀行、資本運営の代行者、ベンチャーキャピタル、プライベート・イクイティ、更に弁護士や各分野のコンサルタント会社が、より多く集まっています。

スペインの大銀行は、国際的に信用を高めており、その中の数行は銀行業界のリーダーであり、国際的な金融問題に対しても上手く対処していける存在であると認識されています。

ここでは、債券と証券という金融商品、地元の堅固な株式市場を成長させてきました。マドリード株式市場では、**IBEXに属する35の大企業と2,000以上の企業**や株式会社が上場しており、それら企業の資本と売買金額は1兆ユーロを超え、スペイン国内総生産を上回っています。

株式市場の中ではヨーロッパで4番目、世界では12番目の大きさです。まず国債の取引では、その85%は海外からの応募によるもので、非常に国際化された市場といえます。またここでは、ユーロ建てでマドリード市場において売買される、ラテンアメリカの主要24企業 (FT LATIBEX)* の債権も重要なものです。

*BME

企業はマドリードを選ぶ

2015年度のフォーブス誌によりますと、2,000社の世界の大企業の中に、マドリードに本社を置くスペイン企業は27社入っています。

マドリードには最も多くの国内企業が存在していますが*、その数はスペイン全国企業の14%に達しています。また、主要2,000社の72%がマドリードに本社を置いています(ダンアンドブラッドストリート社の調査によるもの)。

IBEXに上場している35企業の中では、22社がマドリードに本社を構えています。

2015年度フォーチュン500に掲載された企業の中に、スペインの企業は8社含まれており、マドリードに本社あるいは重要な営業部門を置いています。

2015年度のフォーブス誌に掲載された世界の主要企業2,000社の内、27社がスペイン企業であり、マドリードに本社あるいは支店を置いています。

企業に創造性を与え、それを促進する力強さや行動は、中小企業の中にも広がっています。事実、国内外の依然として複雑な情勢にも関わらず、スペイン経済に示されている経済成長率は、これら中小企業の創造性を高めるために役立っています。2015年度には、12,656の企業がマドリード市で活動を始めましたが、この数字は全国の16%**に相当します。

マドリードは成長率の高い企業が全国の16.2%の割合を占めていることから明らかのように、他のどの国内都市よりも多くの企業が集中しています。

2015年には、12,656の企業がマドリード市で活動を始めましたが、この数字は全国の16%に相当します。

*2015年1月、企業数データDB報告書

**2015年度、スペイン国立統計局 (INE)

スペイン全国の
主要企業は、マ
ドリードにその
本社や重要部門
を置いています。



テレフォニカ本社ビル

世界におけるグローバル化された ヨーロッパ都市の順位

1. ロンドン
2. パリ
3. ブリュッセル
4. マドリード
5. ベルリン
6. ウィーン
7. アムステルダム

出典:A.T. カーニー「2015年度グローバル都市調査」



都市の市役所に関する2015年度のバロメーターによると、マドリードはパリと並んでヨーロッパで2番目に好ましい都市となっています。この順位付けは、「経済と労働市場」、「輸送と通信」、「社会的知名度」、「生活の質」という4つの分野について、39の項目を分析したものです。

近代性と成長率の維持という点でもマドリードは、国際的なランキングの中に入っています。例えば、ファイナンシャル・タイムズ紙のFDI情報部門が発行する、2016～2017年度における海外投資先の報告書によりますと、マドリードはヨーロッパ南部の都市の中では2番目に好ましい投資先都市とされています。

1. ロンドン
2. パリ/マドリード
3. アムステルダム
4. ベルリン
5. ミューヘン
6. バルセロナ
7. ウィーン
8. フランクフルト
9. コペンハーゲン
10. スtockホルム

出典:マドリード市役所バロメーター(第47版)

企業環境、税制と安定した労働環境

非居住者に対して有利な税制は、海外の投資家から非常に評価されています。

スペインの税制は近代的且つ適切なものです。2014年度の税収入はGNPの34.4%であり、ユーロスタットによりますと、ユーロ圏の平均41.5%より7%低く、EUの平均40%を6%下回っています。

非居住者に対して有利な税制は、海外の投資家から非常に評価されています。

法人税の節減プラン、法人税や関税納入手続きは企業の設立や運営を考慮して、必要条件を簡素化しています。法人税、関税、会計監査手続きの大半はネットで行うことが可能です。

共同生活とその調和を心がける社会状況は良好です。マドリードは、いつの時代にも新しい居住者を受け入れてきた都市です。ここでは国籍の違いは問題とされず、経済成長を支える納税を大事にしています。

低い労働争議。これは労使双方の対話によるものです。公的機関や企業は、組織の社会的責任というものに、より重点を置いています。これらの多くは、国連の国際協定を率先して支持し、世界持続可能性ランキングのトップに立っています。

2012年に導入された労働改革は、可能な限り身軽になるような市場構造への脱皮を助けてきました。法律上での改革の目的は、雇用を創出することであり、その為には、企業に対する内外条件の柔軟性の度合い（流動性、労働時間の短縮と解雇を回避する手段としての給与の削減、採用時の税の優遇措置など）をより安定したものにすることが狙いです。結果として、企業は競争力、生産性、技術革新を獲得するだけではなく、同時に労使双方の協議を行う機会をも持つことができるのです。

2012年に導入された労働改革は、可能な限り身軽になるような市場構造への脱皮を助けてきました。

マドリード、グローバル都市



コロン広場—コロン・タワー

スペインは二重課税を免除する協定を、最も数多く調印している国の一つです。この種の協定を結んでいる調印国は103カ国です。

スペインは安定した近代化的な、又、EUの基準に合わせた法律の枠組みを持っており、企業や投資家に対する法律上の保護も保証されていますから、事業の展開を容易にします。

スペインは二重課税を免除する協定を、最も数多く調印している国の一つです。この種の協定を結んでいる調印国は103カ国で、主だった海外投資の出し手と受け取り国の殆どがここに所在しています。

又、73カ国による互恵投資保護協定も結ばれており、これは他国においてその権利や資産が収用される際に、それらが安全に行われるように、当該の投資者を保護する目的のものです。

マドリードの仲裁裁判所は、有能で主体性を持った中立な態度を有し、将来的な見通しを持っているとの大きな

評価を受けました。2013年度中に、国内で指導的立場を確立し、その国際的なプレゼンスに強い刺激を与えました。

2013年度には203件で13億ユーロの係争金額を仲裁裁判所が解決し、ヨーロッパでは最も積極的な姿勢を持つ、優れた五つの裁判所の仲に入っています。



海外投資に好まれる目的地

2014年度のスペインは、世界で9番目の投資対象国となりました。

国連貿易開発会議 (UNCTAD) によりますと、世界経済の先行きが不透明で、世界の対外投資意欲が低下しているにも関わらず、2014年度のスペインは、投資対象国の一つとしての地位にあります。対スペインへの海外からの直接投資額は230億ユーロを計上しました。*

2013年のスペインは、ヨーロッパで最大の海外投資の受け入れ国となりました。2位以下は英国、アイルランド、ルクセンブルグ、ドイツ、オランダで、2012年度実績の投資受け入れ額の52.4%増となりました。同じく、2014年度の世界の順位では9番目に位置しています。

2014年度のFDIの残高は7,159億9,400万ドルで、これは国内総生産の52%**に相当します。海外企業がスペインでの事業展開のために持ち込む資本も、スペインに入ってくる投資として重要なものです。

12,500以上もの外国企業がスペインに会社を設立して、良い結果を得ました。

最近の数年間にマドリードには、スペインに入る海外からの投資額の約65%強が流入しました。固定資産の面で言えば、それはスペインの全資産の24%を超え、仏、米、独、伊の投資家たちが、ランクの上位にあり、メキシコ、ブラジル、ロシアといった新興国の企業投資も増加しています。

2015年度において、投資企業の好む部門は、建設、製造、不動産、卸売り・小売業、金融、保険、エネルギー関連でした。

マドリードにおける雇用のおよそ14%は、外国資本による企業によって支えられています。その意味で、マドリードとその周辺地域は、スペインで最も国際化されたところ です。

12,500以上もの外国企業がスペインに会社を設立して、良い結果を得ました。

*2015年度UNCTAD世界投資報告書

** UNCTAD, スペイン貿易投資庁 (ICEX) 「インベスト・イン・スペイン」報告書

Azcaビジネス街

マドリードは、スペインを対象とする海外の投資家にとって、好ましい環境にあります。



見本市や会議の出会いの場



見本市と会議の開催は、20億ユーロを超える経済効果をマドリッド地域にもたらしましたが、これはGDPの1.2%に相当し、4万人以上の雇用を生み出しました。

ビジネス観光という職業上の理由で、マドリッドを訪れる訪問客は年々増えています。この都市が持つ収容力、経験、競争力あるコストなどは、定評のあるところ です。事実、スペインは最も重要な会議の開催地であり、国際会議協会 (ICCA) による国際会議都市に関する国際ランキングでは、第3番目に位置しています。*

2014年には200回の国際会議に出席する121万人の人々をお世話し、約5,000回の会議や会合、12,000回を超える大会、更に76回を超える行事を主催しました。

マドリッド市は、スペインにおける観光事業の分野では、どの都市よりも貢献しております。2014年度にこの部門は、**ほぼ44億ユーロの経済効果を得ました**。この金額の内31%は、会議を主催した企業の支払いによるもので、残りの69%は他の部門との共同で獲得したものです。

マドリッド市の中心部にある国際展示会議場のパラシオ・デ・コングレソス・イ・エクスポシシオネス、カンポ・デ・ナシオネス地区にあるマドリッド市立展示会場及びIFEMA国際見本市会場が、展示会や催し物の開催の大半を受け持っています。

IFEMA国際見本市会場は、南部ヨーロッパ地域でもっとも重要な見本市会場です。3万の出展企業による入場者数は、270万人にも達しました。

IFEMAで開催されるARCO (現代美術国際見本市)



IFEMAで開催されるモーターショー

マドリードで毎年開催される重要な見本市は以下の通りです。FITUR(フィットゥール)国際観光見本市、メルセデス・ベンツ・ファッションウィーク・マドリード、ARCO(アルコ)現代美術国際見本市、ワールド・オリーブオイル展示会、サロン・デ・グルメツツ、フルーツ・アトラクション、マドリード・ゲーミング・イクスピアエンス(マドリード・ゲームショー)など。

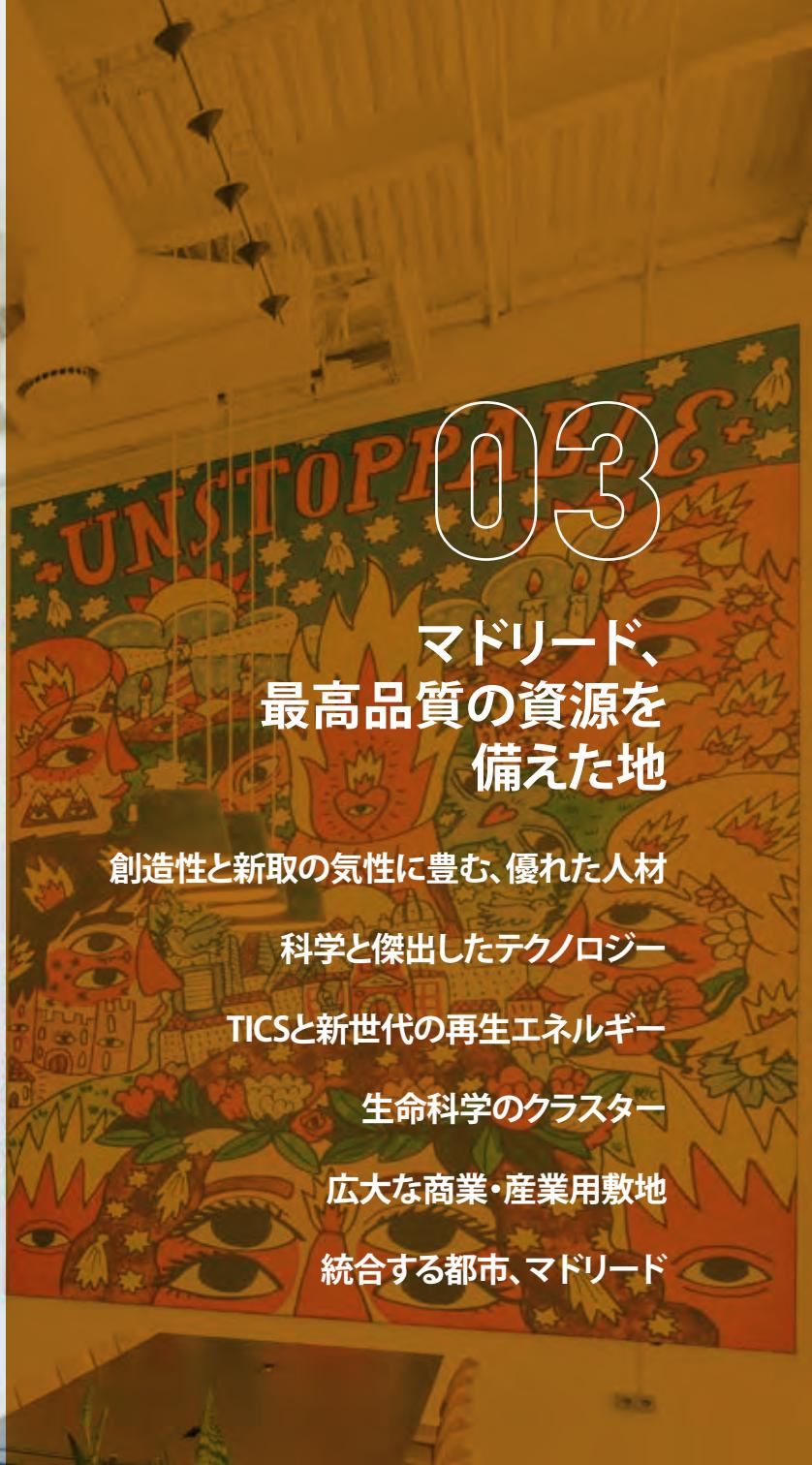
IFEMA自体も今年初めて少し変わった催しを行いました。それはマドリード市役所の支援のもと、インドにおいて毎年封切される映画1,000点から最も優れた作品を表彰するIIFA(国際インド映画アカデミー)賞の開催です。この催しのおかげでマドリード市は、1,500万ユーロの経済効果を得て、インドでもマドリード市が更に良く知られるようになりました。

マドリード国際見本市会場のIFEMAは、南ヨーロッパ地域で最も重要な見本市会場です。12棟のパビリオンは、140万平方メートルの展示スペースを提供しています。3万の出展企業の行った催しに訪れた人は270万人で、その内40%はプロフェッショナルな人たちです。毎年行われるコンクールのいくつかは、国際的なものですから海外の企業にとっては、非常に魅力あることでしょう。

見本市会場の附属施設には、ビジネスセンターと記者クラブ、14,000台を収容する駐車場があります。



グーグル社のキャンパス



03

マドリード、 最高品質の資源を 備えた地

創造性と新取の気性に豊む、優れた人材

科学と傑出したテクノロジー

TICSと新世代の再生エネルギー

生命科学のクラスター

広大な商業・産業用敷地

統合する都市、マドリード

創造性と新取の気性に豊む、 優れた人材

マドリードはスペインの中では高い進取性を持った地域ですが、その証拠にスペインで設立された全企業の内16%がこの地域に存在しています。

マドリードの17の国立・私立大学には、毎年30万人の学生が学び、4万人が新入学しています。この数字は、ヨーロッパの首都にある主要大学の規模に相当するまでになっています。ビジネススクールはどれも国際的な名声を得ています。例えば**ESADE** (エサデ) ビジネススクール、**IE** (インスティトゥ・デ・エンプレサ) ビジネススクール、**IESE** (イエセ) ビジネススクールは、いわゆる才能の宝庫であり、経営管理については海外からも多くの学生がここで学んでいます。これら三教育機関は、**MBAプログラムに関する2015年度ファイナンシャル・タイムズ紙ランキングによりますと、世界のベスト25教育機関の中に入っています。**

マドリードは開かれた都市ですから、スペイン人だけではなく、181各国の国籍を持つ殆ど世界中の人々が住み、そして働いています。^{*} これは、あらゆる職業を持った人々が、広範に動いていることを示しています。住民の12.2%は、スペイン外で生まれた人々です。^{**}

このような傾向は、スペイン語がスペインとマドリードにとって、資源の一つの重要な源へと変貌させました。テレフォニカ財団によりますと、スペイン語はGDPの経済価値とスペインにおける雇用の16%を生み出しています。

マドリードはモノを創り出すに相応しい場所であり、インスピレーションを与える都市です。他のヨーロッパの大都会に比べて、人々は若く活力があり、**レベルの高い教育を受けた熱心で積極的且つ力強い姿勢**に恵まれています。OECDの統計によりますと、24歳から65歳までの人口の32%が大学教育を受けています。一方労働力は十分な競争力を持っています。

マドリードはスペインの中では高い進取性を持った地域ですが、その証拠にスペインで設立された全企業の内16%がこの地域に存在しています。^{**}

OECDの統計によりますと、24歳から65歳までの人口の32%が大学教育を受けています。

2015年度、マドリード市住民登録票

^{*}2016年度、マドリード市役所外国人住民官報

^{**}2015年度、スペイン国立統計局

最先端科学と科学技術

教育機関や公共団体及びスペイン企業は、科学技術や技術革新の面で競い合っています。

大学と企業は、様々なプロジェクトや協調関係を通して、日ごとに協力体制を強めています。双方の**戦略的協力関係**において、企業は研究能力とともに競争力を高めています。一方大学側は各分野の専門家を動員して着実に研究成果を上げています。そうした最終目標に対する完全な共生は、発展と競争力を獲得した後に生ずる、知識、技術、イノベーションを基にして、生産モデルとその経済的な採算性を達成します。

マドリードにはスペイン人研究者の23.2%が働き、居住しています。

マドリードには、CSIC(スペイン高等科学研究院)の123部門の内、36部門があります。

こうした仕事の大部分がマドリードで展開されており、スペイン人研究者の23.2%がここで働き住んでいます。* 毎年科学分野や科学技術分野を専攻する、14,000人の学生がマドリードに所在する大学を卒業しています。

またマドリードには、CSIC(スペイン高等科学研究院)の123部門の内、36部門があります。純粋な科学研究と応用科学研究の部門を持った、この公立組織はスペインで最大であり、ヨーロッパでも三番目の規模を持っています。科学と科学技術の進歩という面から研究を展開促進するために、CSICは内外の研究組織や機関との協力体制への道を開けています。

マドリードに所在する企業は、新技術の利用に関してはリーダー的存在です。科学技術研究の比重の大きい部門では、28万人以上のも人々が働き、その内49,973人はR+D+Iの専門です。

TICS と新世代の再生エネルギー

首都マドリードにはエンデサ、イベルドロラ、ガス・ナトゥラル・フェノサ、に加えて国際的な企業として知られるレプソルが本社と主要部門を置いています。

通信分野の主要な多国籍企業も、首都マドリードと周辺地域で業務を行っています。テレフォニカは、構築された通信網(テレフォニカ管区)に対して、本社から世界中で推進されている業務や投資内容を指示します。又、マドリードにはヴォーダフォン、ブリティッシュ・テレコム、オレンジ、テリア・ソネラのようなヨーロッパの他の通信企業や通信器械の大手販売企業(サムスン、アルカテルールセント、モトローラ、ノキア・シーメンス、ファーウェイ、エリクソン)も業務を展開し、米国アップルはヨーロッパで最大の販売店を持っています。

ハードウェアやソフトウェアの工場や情報サービス提供会社(マイクロソフト、グーグル、オラクル、CA、SAP、インドラ、インテル、デルあるいはシスコ)に加えて、デジタル分野で革新的な技術を持った、多くの中小規模の企業も業務を行っております。

首都マドリードにはエンデサ、イベルドロラ、ガス・ナトゥラル・フェノサ、に加えて**国際的な企業**として知られるレプソルが本社と主要部門を置いており、**再生エネルギー問題にも熱心に取り組んでいます。**

ネット販売の大手企業である米国アマゾン社は、ヨーロッパの中心基地としてマドリードを選びました。

再生エネルギーに関する事業展開や開発は、益々堅実なものとなってきていますが、マドリードにはこのような分野の主導的立場にある企業(ガメサ、イベルドロラ、BP、あるいはアクシオナ)の存在が顕著です。これらの企業は、風力、太陽光、バイオマスエネルギーの分野で、国際的にも重要な立場にあります。



マドリードには、物質科学やナノテクノロジーの分野で活躍する主要企業、大学及びスペインの研究センターが集まっています。

生命科学のクラスター

マドリードは、国内で最大の生物工学研究の中心地で、主要大学、学術や技術移転に関する研究本部、科学や科学技術のテクノパークなどを抱えています。

これは将来有望な分野として国内で益々重要性を高めていますが、事実、2014年度スペインの国内総生産の中で、生物工学の占める割合は9%にも達しています。**スペインにおける生物工学企業の32%はマドリードに本社を置いており、そのR+Dにおける投資額は、これら生物工学関連企業の総利益の83%と推定されています。**

これらの企業の中でリーダー格は、セルティアセレリクス／ヘネティクス及びビオツールズやメルクセローノ、ジェンザイムやモンサントのような国際的知名度の高い企業です。

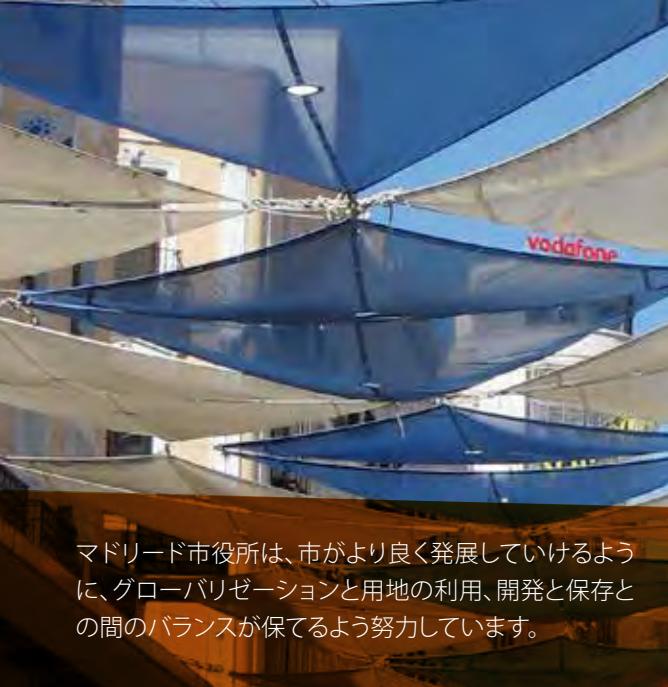
科学、科学技術や産業分野で、マドリードは公的研究機関だけではなく、私的機関に対しても積極的に援助の度合いを高めています。例えば、スペイン産業技術セ

ンター (CDTI) のような公的機関は、民間団体の投資を企業イノベーションや技術レベルの向上につながるように運営されています。

地元マドリードの病院も、国立心臓血管系 (CNIC) 研究センター、腫瘍学研究 (CNIO) センターを筆頭に、その他の国立・私立大学や国内外の優れた企業と**一緒に重要な最先端の研究活動**を行っています。

国内外の**製薬会社**の殆どが、他の分野の企業と同様の判断で事業展開しています。その主なものは、アボット、ブリストル・マイヤーズ スクイブ、リリー、メルク、MSD、ロッシュ、GSK、ファイザー、シエリング・プラウ、サノフィ、ワイスなどです。

他の科学分野でも、マドリードは同じようなレベルにあります。例えば、**火星における生命起源に関する計画にもアメリカ航空宇宙局NASAと協力しています。**



マドリード市役所は、市がより良く発展していけるように、グローバリゼーションと用地の利用、開発と保存との間のバランスが保てるよう努力しています。

広大な商業・産業用敷地

マドリードは、企業が事業のために必要なオフィスを購入あるいは賃貸する場合にも、広く多様な産業・商業用地を提供しています。経済成長や都市開発の増加にもかかわらず、その価格はロンドン、パリやその他のヨーロッパの首都に比べても、十分競争できる水準にあります。

土地の面積についても、既に開発された工業団地や将来の産業用用地として計画の出来上がっている物件を合計しますと、1,800万平方メートルもの広大な敷地が用意されています。

クッシュマン・アンド・ウェイクフィールド社の調査によりますと、2014年6月から2015年5月末までの世界の不動産投資額について、マドリード市は164%の増加を示したとして、トップに指定されています。同じコンサルタント

の作成した世界の賃貸オフィス調査の2015年度ランキングによりますと、オフィス価格の最も高い都市はロンドン、次いで香港とニューヨークで、マドリードは30位となっています。



プレシアドス通り

マドリードが示す大きな発展に伴って、市役所はより親しみのある近代的で住みやすく、また機能の統合された都市としての新しいモデルとなるような、持続可能な都市の発展という戦略計画を立て始めました。このプロジェクトでは、特に公共空間の移動と改善という計画が作成され、その中には遊歩道の移動という問題を中心に、居住地へのエネルギー改善と効率の向上化という問題も含まれています。

マドリードには、450ヘクタールの公共用地が市とその周辺地域に確保されており、1000ヘクタールを超える用地が、テクノパークや科学技術クラスターのために計画されています。



マドリードには、450ヘクタールの公共用地が市とその周辺地域に確保されており、1000ヘクタールを超える用地が、**テクノパーク**や**科学技術クラスター**のために計画されています。これは、環境の整った敷地と設備の中で、産学の協力とそのネットワーク形成という方式によって、各大学や研究所がそれぞれの持つ知識や技術の流れの中で、企業とその市場を刺激し、またそれをまとめていくことが狙いです。結果として、大学や研究所は学問上の知識を深め、企業は技術を磨き、互いに協力するネットワークを構築していきます。



マドリードにおけるテクノパーク

1. レガネス市科学・企業テクノパーク
2. ヘタフェ市科学・企業テクノパーク
3. トレス・カントス・技術テクノパーク
4. マドリード市科学テクノパーク:カントブランコ
に位置するこのテクノパークは、主要大学によって設立されたもので、数々の先端技術研究所や企業が集まっています。
5. アルカラー・デ・エナレス市科学技術テクノパーク
6. モストレス市技術テクノパーク
7. マドリード工科大学科学技術テクノパーク(三つの大学キャンパス内にあります)。

統合する都市、マドリード

工業や商業、更にビジネスの中心地であるマドリードは、これらを統合する都市でもあります。

マドリードは居住を希望する人々の役割と貢献を重く見て、1993年にユーロシティーズ条約に調印しました。そのため、マドリード市も「統合都市憲章」に加盟した、ヨーロッパの大都市の一つとなりました。

長期にわたって人々を受け入れていこうとする方針を持つ都市として、差別の無い生活を保証し、更に政治的な処置によってそれぞれの移民社会との出会いを促進し、そこへ参加するための障壁を取り除こうとする目的を持って、全ての居住者のために平等な機会を形成しています。

以来、マドリード市は継続的に計画を進め、マドリードに住もうとやって来た人々が出来るだけ上手に共生し、一体化するように努めています。居住者にとって開放的で居心地が良いという環境は、非常に大きな魅力の一つです。その証拠に、マドリード市はバルセロナ市と並んで外国人居住者が最も多いスペインの都市です。



マドリードは居住を希望する人々の役割と貢献を重く見て、1993年にユーロシティーズ条約に調印しました。そのため、マドリード市も「統合都市憲章」に加盟した、ヨーロッパの大都市の一つとなりました。

2016年1月期の首都マドリードにおける登録外国人居住者は388,120人で、2015年同期に比べて5,670人(1,5%)増となっています。







04

マドリード、 生活水準が高い都市

開放的で国際色豊かな都市

持続可能な都市：豊かな緑と水、交通機関

観光



開放的で国際色 豊かな都市

マドリード市程、あらゆる国の文化に対して寛容な都市はありません。それ故、マドリードに在住する181カ国300万人を超える外国の人々が、互いに仲良く暮らしているのであり、マドリードは国際色豊かで様々な国の言葉を話す人々の最も多い都市となっているのです。

外国からの移住者の証言やマーサーコンサルティング会社と英国の経済文化雑誌「モノクル」の調査によりますと、マドリード市が私生活と職場の生活を両立させつつ楽しく過ごすことが可能な、優れた生活スタイルを持っていることを認めています。

マドリード市は様々な国の語学教育に多くの便宜を図っており、12カ国の言葉を教える69の国際語学学校や240の公立学校のほかに、多数の私立学校がバイリンガル教育や専門的な言語教育を行っております。マドリードは、パリ、ロンドンと共に、ヨーロッパの大学の一つの極を構成しています。毎年、3万人以上の学生を受け入れており、MBAを取得するか、あるいはMBAエグゼクティブの人々にとって、マドリードは主要な目的地となっています。

外国人学生のインパクトは、マドリードにとって極めて重要だと理解され、公的教育機関によって、「マドリード・スチューデント・ウェルカム・デー」が設立されました。以来、これは入学した外国人学生を歓迎する授業始めの公式イベントとなっております。

マドリード市はあらゆる国の文化に対して寛容であり、181カ国の人々が仲良く暮らしています。

毎年マドリード市は3万人を超える外国人学生を受け入れています。

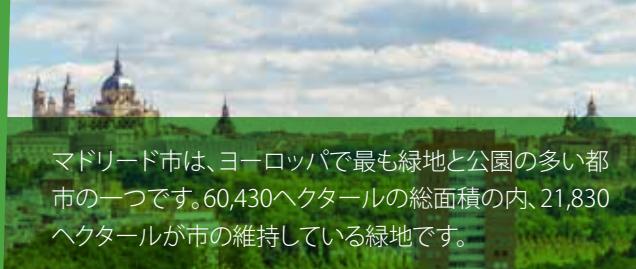
持続可能な都市： 豊かな緑と水、交通機関

マドリード市は緑が豊かです。それは都市を持続的に展開していくという計画そのものにとって、極めて重大で、不可欠なものは環境である、という自覚を持っているからです。

マドリード市は、ヨーロッパで最も緑地と公園の多い都市の一つです。60,430ヘクタールの総面積の内、21,830ヘクタールが市の維持している緑地です。こうした姿勢のおかげでマドリード市は、シカゴ・アテネウム(=シカゴ・建築デザインミュージアム)及びヨーロッパ建築アートデザインセンターが共同主催する「グリーン・グッド・デザイン賞」を受賞しています。

市内の通りには、30万本以上の樹木がそびえ立っていますが、これは**市内の道路の55%に並木が植えられていること**を意味します。もし全公園の樹木を加えれば、その総数は100万本を越えることでしょう。マドリードは住民一人当たり20.5平方メートルの緑地を提供している計算になります。因みにWHOは一人当たり最低10平方メートルの広さの緑地を持てるよう勧告しています。

市内に与えた急激な変化と大きな影響は、市内を流れるマンサナレス川沿いに「緑の輪」と線状に伸びる公園を造ったことであり、それによって緑に満たされた背骨のようなマンサナレス川の川床と市内は、再び生態系上のバランスを取り戻したことです。又、市内を取り巻く内環状線道路(M-30)の主要な部分を地下道にすることによって、150ヘクタールの土地が生まれ、それまで車道であった所は、遊園地や運動場、緑地に生まれ変わりました。



マドリード市は、ヨーロッパで最も緑地と公園の多い都市の一つです。60,430ヘクタールの総面積の内、21,830ヘクタールが市の維持している緑地です。



市内を取り巻く内環状線道路(M-30)の主要な部分を地下道にすることによって、150ヘクタールの土地が生まれ、それまで車道であった所は、遊園地や運動場、緑地に生まれ変わりました。



マンサナレス川

それだけでなく、市内の全域を垂直・水平方網に緑を増やすための「マドリード+自然」と名づけられた、持続と環境活動計画が発足しました。それらは、「持続する街での移動計画」、「風のある街」、「エネルギーの持続的使用と気候変化の防止」、あるいは市内の大通りの遊歩道を復活させる「マドリード散歩計画」などです。





レティロ公園内の湖

マドリード市の緑地に関するデータ

- 21,830ヘクタールに及ぶ市内の緑地
- 市内全域の30%が緑地
- 30万本の樹木が市内に存在
- 100万本以上の樹木
- 一人当たり20.5平方メートルの緑地を持つ
- 290キロメートルに及ぶ市内の自転車道路

マドリード・リオ(マドリード河川)

- 地下道路建設で150ヘクタールの土地を生み出す
- 30キロメートルの自転車道路
- 53キロメートルに及ぶ散歩道
- 95万2000平方メートルが公園と緑地



地下鉄

これらの大きな計画と共に、マドリードの公共交通機関も持続的な都市の強化に貢献しています。広範囲にわたる地下鉄路線は、引き続き延長が続けられています。その効率の良さや、交通量と市内に発生する大気汚染を減らすことによって、市内が申し分の無い移動性を持つように努力しています。



バス

市内のバス路線も益々持続的な状態になってきています。1994年度より、天然ガスや電気を動力としたバスを投入してきた結果、それらの比率は現在では稼働車両の42%強となっています。2017年度までに、ゴミ回収用のトラック全てを高圧天然ガス車両へ転換させるよう準備中です。



近郊電車

近郊電車路線網は、毎日首都圏に入る人々にとって不可欠のものです。総路線の合計は391キロメートルで、21の路線はヨーロッパで最も近代化されたものの一つであり、今も引き続きその技術や利便性が改善されています。

この地域の道路網は、2572キロメートルに及び、市内の優先路線、放射状に広がる高速道路網とそれに連絡する自動車専用道路網で構成されており、これらを取り巻く環状道路網は各道路間の連絡を容易にしています。



エル・アタサール・ダム

水利

貯水から始まり最後に消費者に水が届くまでの水の総合的な管理は、マドリード市のカナル・デ・イサベル2世水道公社によって行われております。マドリード州における供給システムは、主として14のダムへの貯水を基にしており、これらのダムの貯水能力は9億4590万立方メートルに及びます。

絶えず管理を行いながら水資源の有効利用を促進していこうとする任務のもとで、天然資源、エネルギー、様々な原材料、更に600万人の住民に水を供給するカナル・デ・イサベル2世水道公社経営部門が管理する水の消費量などは、最適の状態に保たれています。

水利に関するプロセスは革新的な側面と、周囲の環境に配慮していこうとする重要な側面を持っています。即ち、汚水を自然環境のもとへ戻したり再利用するために全て回収し、化学処理や浄化することです。このようなプロセスを経て、浄化された水は街の清掃や公園の散水のために再利用され、川に注ぐ水の汚染を軽減します。河川の水質が高められたおかげで、きれいな水にしか生息できない川獺のような特殊な動物も、生き延びることが可能になりました。

貯水の過程では、雨水の有効利用を図った63の地下回収施設が設けられ、1.46立方メートルもの水量を回収することが可能であり、飲み水以外の目的に再利用されます。

観光

毎年6800万人に及ぶ観光客がスペインを訪れます。これは世界で3番目に多い旅行者数で最も魅力のあるマドリードには2015年度は1100万人が訪れました。

スペインには世界で2番目に多くの遺跡や「ユネスコ世界遺産」に登録された場所があります。マドリードはそれらの完全で変化に富んだ文化・美術遺産の最良のものをお見せしています。

- 600以上の建築物が文化遺産として登録されています。
- 350の美術館、画廊、展覧会場があり、美術館の中で最も代表的なものはプラド国立美術館、国立ソフィア王妃芸術センター、ティッセン-ボルネミッサ美術館（この三館はマドリード市内の「美術の三角形」地区を形成しています）、及びARCO国際現代美術見本市などです。
- マドリードを中心に、半径100キロ以内に、人類の世界遺産に登録されている六つの都市があり、それらはアルカラー・デ・エナレス、アランフェス、サン・ロレンソ・デル・エスコリアル、アビラ、セゴビア、トレドです。

マドリード市は美術鑑賞に対して振り向けられた場所の最も多い都市であり、350カ所も美術鑑賞の場があります。世界中でマドリード市の「美術の三角形」地区程、それぞれの美術館が近くに存在して、様々な時代の名作の数々が展示されているところは他にありません。これによって豊かな美術環境を形成して、多くの旅行者を魅了しているのです。これら三美術館は「スペイン王国の財宝」ですが、他にも自然科学博物館、アメリカ博物館、ソロージャ美術館、ロマン主義美術館、鉄道博物館などが周囲に点在しています。

マドリードには80,500軒のホテルがあり、その内4星が141軒、5星が24軒です。いずれもサービスと宿泊料はリーズナブルな設定になっています。





スペインには世界で2番目に多くの遺跡や「ユネスコ世界遺産」に登録された場所があります。

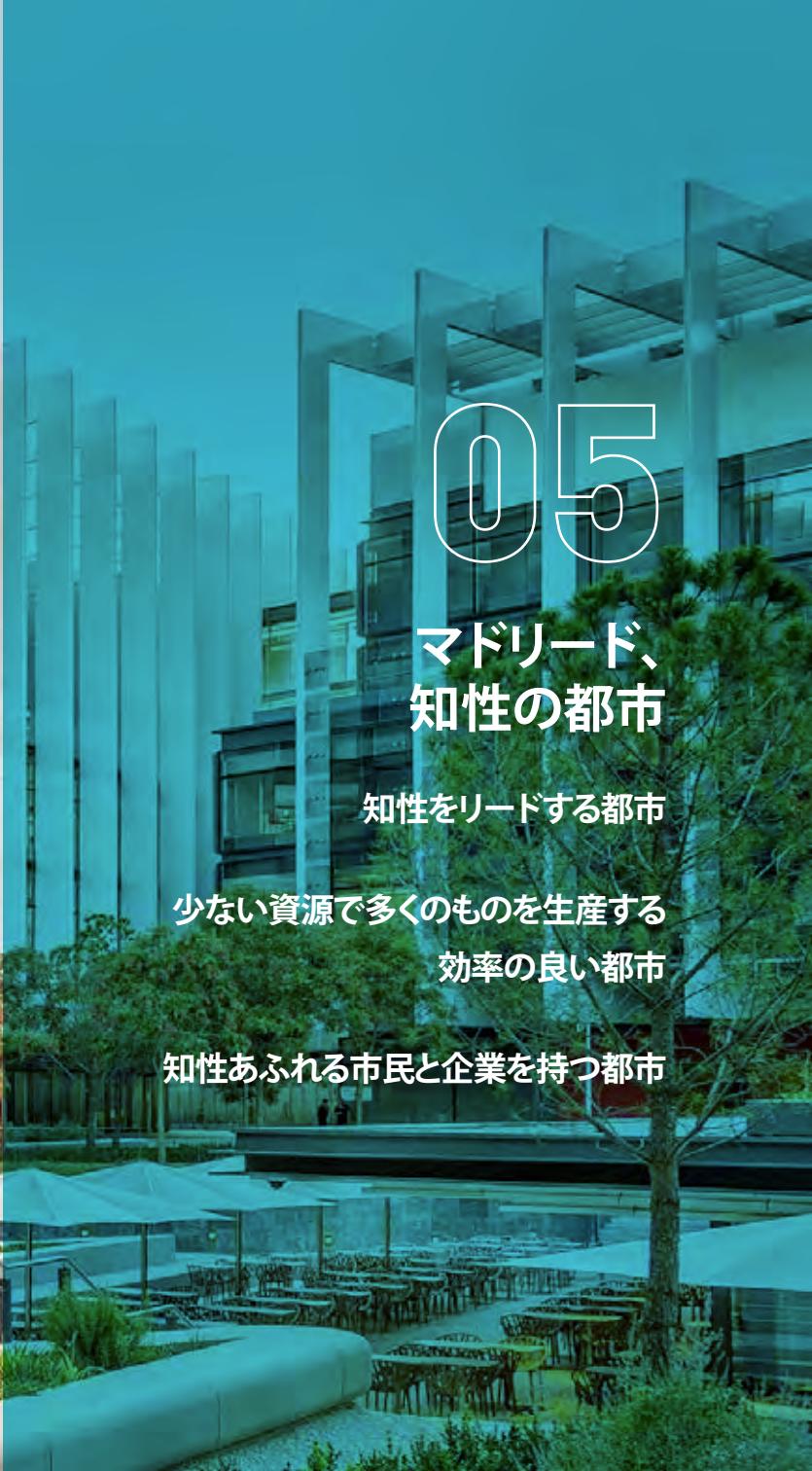
マドリードには80,500軒のホテルと15,000軒を超えるレストラン、カフェやバーがあり、いずれも好みや予算に応じて満足させてくれます。

様々な美食は、スペイン料理だけではなく、外国料理、伝統料理あるいは前衛且つ革新的な料理の如何に関わらず、味にこだわる人々にとっては、どれもが限りなく賞味の可能性を与えてくれるものです。マドリードには、15,000軒以上ものレストラン、カフェ、バーなどがあり、それぞれ好みや予算に応じて満足させてくれます。

その証拠に、スペインでは**美食**はとても重要であり、**首都マドリードではミシュラン・ガイドの星を獲得したレストランが13軒**、そしてマドリード州でも同じく4軒のレストランが獲得しています。



マドリードのレプソル社キャンパス



05

マドリード、
知性の都市

知性をリードする都市

少ない資源で多くのものを生産する

効率の良い都市

知性あふれる市民と企業を持つ都市



トップクラスの知性の 都市、マドリード

マドリード市役所は長年にわたって、市内の環境や住民の健康をより良い状態に保つために、どのようにして新しい技術を応用していくかという問題に携わってきました。

例えば科学技術は、マドリード市や周辺地域への安全対策や犯罪率の持続的な軽減のために発揮されています。その結果、2015年度には従来の犯罪率の半分である56.7ポイントも減少しており、事故や犯罪が発生した際に、現場に救急車や警察が到着する時間も短縮されています。EU15カ国のデータと比較しますと、スペインは犯罪率が3番目に低く、最も安全に恵まれた国の一つです。

内外の様々な研究は、マドリード市の努力を明確に浮かび上がらせています。2012年度には他の三都市と共に、スペインの最も持続的な都市として、「**スペインの持続可能な都市25選**」で承認された状態を今も引き続き維持をしています。また、IESE シティーズ・イン・モーション (ICIM) ランキングでは、マドリードは2位にあります。

少ない資源で多くのものを 生産する効率の良い都市



CISEM (マドリード安全・緊急統合センター)
内のコントロール室

2014年度に導入された「MiNT・知性の都市マドリード計画」は、次の10年間のスマートシティ・マドリード戦略を幅広く展開していくための基礎となるものです。

知的都市は、少ない資源を効率良く利用することを基本的原理としています。いわゆるスマートシティとしてのマドリードは、都市へのサービスの展開と運営をモットーにしていますが、それらは持続的な展開を基礎にしたもので、市民生活の質の向上に貢献しています。

都市の重要且つ戦略的なサービスの能率を更に向上させるために、マドリード市役所は2011年度より、公共サービスに関する賢い契約を行っております。その内容は、サプライヤーの削減、長期契約、管理方針の明確化、情報・通信技術に対する公平な支援などで、いずれもこの新しいモデルには欠かせない要素です。

要するに賢い運営は、都市の清掃や廃品回収、都市の移動能力の確保、駐車場や交通標識、制限地区への進入規制、公共自転車の供与サービス、ガードレールの設置などの部門に適用されています。

2014年度に導入された「MiNT・知性の都市マドリード計画」は、次の10年間のスマートシティ・マドリード戦略を幅広く展開していくための基礎となるものです。「MiNT」拠点は、インフラ整備、都市の移動性、交通、駐車場、照明、廃品回収、清掃、道路舗装、公園、樹木などの部門を包括する、環境保全や都市の移動性と関連した都市サービス任務を行うものです。

この賢いシステムは、サービスの向上に貢献可能な情報を通して、都市管理サークルの中に市民を直接組み込んでいくものです。市民は市役所に対して、起こった出来事を報告します。このようなケースでは、問題を処理し、その後は実施された作業を監督する契約会社に知らせます。こうした連絡の流れは、街の住みやすさを高め、将来起こりうる出来事の予測を可能にすると同時に、使える資源の有効利用法を調整します。

この「MiNT計画」の実行によって、マドリード市役所はサービス奉仕コストの15%を節約でき、マドリード市は現代の最も進んだ知的な都市の中に位置付けられました。

この偉大な計画の中には、マドリード・スマート・ラボのようなものも含まれており、都市サービスの部門で、積極的な革新世代の計画が始まりました。

この他にもまだ計画があります。数々の公共企画と並んで、マドリードには民間主導の「Car2go」のような企画も展開されています。これは電気自動車のレンタル網を設置したもので、移動の容易さと大気汚染の低減化を目的としています。

知性あふれる市民と企業を持つ都市

マドリード市はスペインにおける情報社会や通信業に関する全ての数値においては、首位にあります。テレフォニカ財団の「2015年度スペインにおける情報企業」によりますと、市民の86.4%は自宅にブロードバンドを所有しており、企業がインターネットにアクセスする割合は、全国平均を上回っており、社員が10人以下の企業で73%、同じく10人以上の企業では99.5%に達しております。ブロードバンドの接続については、各々89%と100%となっています。





テレフォニカ本社ビル



「クアトロ・トレス」(4本タワー)ビジネス街

06

企業の支援活動を行う マドリード

経済発展を助成するマドリード
市役所

海外投資の呼び込みプラン

投資家への支援・相談窓口

マドリード市、企業育成センターの
ネットワーク

経済発展を助成する マドリード市役所

マドリード市役所は、幾つかの専門部門を通じて以下の戦略および政策をもとに、市の経済促進と活性化に貢献しています。

- 企業がマドリードに会社を設立する際に、有利な社会・労働環境を取得できるように、**業界とのまとめ役**を行います。
- **研究と知の創出**によって、企業イニシアティブの基盤を作り上げています。
- 効率の良い**地域間バランス**を図るために、市内の各地区を連帯させる政策を行っています。
- 通信及び交通機関のインフラ整備に、**多額の投資**を行っています。
- 企業や有能な人材などを呼び込むために、**世界の一流都市にふさわしい環境の整備**に勤めています。



投資家への支援・相談窓口は、実際の窓口とインターネットを通じた相談という二つの方法によって受け付けております。これによって、マドリード市における海外投資の呼び込み支援や、海外資本の企業の関係者に対する直接の相談窓口の役目を務めております。

投資家への支援・相談窓口

各分野におけるマドリード市の国際的競争力を高め、市が必要とする経済と雇用の発展のために、海外投資を呼び込むことが計画の目的です。この計画の基本軸は以下の通りです。

- 国際社会におけるマドリード市の位置づけについて
- 市の付加価値と発展に貢献する分野で活動する投資の呼び込み
- マドリード市に支店を持つ海外資本の企業を定着させます
- マドリード市に有益な市場に力を入れています

- マドリード市で業務を希望する企業に対して必要な情報を提供し、法的及び商業的な案件のみではなく、家庭や個人の生活に関する相談も受け付けております。
- マドリード市における工業地帯、商業地帯や空き事務所などの情報を提供いたします。
- 事業の立ち上げに向けての手続きを早めるために支援いたします。

マドリード・インタナショナル・ラボの建物内にヨーロッパ・イスラエル向け米州開発銀行 (IDB) の支部が業務を行っているため、マドリード市は**中南米大陸との経済協力の懸け橋にもなっております。**

マドリード市、企業育成センターのネットワーク

マドリード市内には、およそ22万5千人の起業家が集中しており、これによってスペインで最も数多くの企業が設立される都市となっています。この起業家の方々に応えられるために、数年前よりマドリード市役所は企業育成センターのネットワークを運営しています。

このネットワークには、大学、財団、経営者団体や大企業が協力者となっています。

企業育成センターは、企業創業の立ち上げと発展のため、適当なインフラ整備と専門的な補助を提供します。

この企業育成センターは、マドリード市における唯一のBIC（ビジネス・イノベーション・センター）として欧州委員会から認められています。同時に、EBN（欧州ビジネス兼イノベーション・センター・ネットワーク）のメンバーでもあり、N-BIA（全米ビジネス・インキュベーション協会）にも加盟しています。また、2009年にはIEDC（国際経済開発評議会）の起業家国際賞も受賞しています。



「工業ファクトリー」は、企業育成センターと同様の意図を持つ、マドリードの産業促進に貢献する計画です。この「ファクトリー」は、高いRDI(研究・開発・イノベーション)レベルを持つ産業界で事業立ち上げを図る起業家や経営者を支援しています。



インフラ整備 + 専門的な支援サービス

- 企業育成センター：6
- 産業界用の専門事業立ち上げセンター「産業ファクトリー」：1
- マドリード・インターナショナル・ラボの傘下のイノベーション関連企画の展開を可能とする多様スペース「ラ・ナベ」
- 企業による事業計画を展開する育成スペースが2万平方メートル以上
- 投資額：2,600万ユーロ
- 企業育成ネットワークに300以上のスタート・アップ企業及び800以上の起業家が加盟

主なリンク集

マドリード市役所



マドリード市監視局



スペイン国立統計局



マドリード証券取引所



IFEMA、マドリード見本市会場



スペイン空港・航空
管制公団 (AENA)

ユーロスタット



UNCTAD、国連貿易開発会議



ユーロシティーズ



スペイン政府・産業技術
開発センター (CDTI)

クレジット表記

マドリード市役所、経済・金融局

写真を提供いただきました下記の企業・団体に感謝申し上げます。

Thinkstockphotos, wikimedia, ejecutivos.es, www.zoomnews.es, mapio.net, madrid.es, emprende.es, www.gacetasllocales.com, blog.rta.com.es, google, constructalia, BBVA, Telefónica, Repsol.



